

当社開発「フロン・六フッ化硫黄無害化処理装置」が 「第10回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞」審査委員会特別賞受賞

平成19年9月6日、当社エネルギー応用研究所が開発した「フロン・六フッ化硫黄無害化処理装置」が日刊工業新聞社主催、経済産業省・環境省後援の「第10回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞」において審査委員会特別賞を受賞しました。本賞は、オゾン層保護・地球温暖化防止の推進に顕著な功績をあげた企業等が対象となっています。

当社は持続的発展が可能な地域づくりに貢献するため、温室効果ガスの削減を積極的に進めています。その

一環として、電気加熱した固体アルカリ剤をフロン・六フッ化硫黄と直接反応させ、無害化分解処理する新方式「固体アルカリ反応方式」を独自開発しました。「フロン・六フッ化硫黄無害化処理装置」はこの新方式を実用化したものです。排ガスも排水もなく、小型でメンテナンスも容易であるなど、フロン・六フッ化硫黄の無害化分解処理を省エネ型技術で実現したことが高く評価されました。



授賞式の様子（右は田中技術開発本部長）
（写真提供：日刊工業新聞社）



フロン・六フッ化硫黄無害化処理装置

「バイオマススターリングエンジン」国際会議で受賞

「The Best Paper Award」優秀論文賞受賞

当社電力技術研究所は、NEDO殿、(株)シーテック殿と共同研究で実施したスターリングエンジンを用いた「バイオマス直噴燃焼式小型発電システムの開発研究」（平成16年度～平成18年度）について、第13回国際スターリングエンジン会議（会議名：The 13th International Stirling Engine Conference、開催日：平成19年9月23日～26日、開催場所：早稲田大学）で発表し、「The Best Paper Award」（優秀論文賞）を受賞しました。本会議では、国内外から67件の発表があり、当社を含めて6件が受賞しました。

論文「Development of Small-Scale CHP Plant with Wood Powder Fueled Stirling Engine」に対して、国際会議座長からは、「今回の研究開発は直ちに商品化には結びつかないものの、木質バイオマスを用いたスターリングエンジンでは避けては通れない課題である熱交換器部分に発生する灰付着のメカニズムについて、各運転条件を変化させ採取した灰の分析をもとに十分考察している点が、今後のバイオマス利用スターリングエンジンの

発展に大きく参考となる内容であり高く評価する。」とのコメントを頂きました。

この度の受賞を励みに、今後もバイオマスに関する研究業務に精進していききたいと思います。



左から：エネルギーチーム佐藤克良、石川明TL、大岩徳雄